

令和5年度 県立米沢興譲館高等学校 探究活動成果発表会 基本要項

山形県立米沢興譲館高等学校 探究課・SSH事務局

- 1 趣 旨 米沢興譲館版 3DOC に基づき優れた探究的な学びを行ってきたグループがその成果を発表し、全校で共有する。
- 2 目 的 (1) 優れた探究的な学びのロールモデルを全校で共有する。  
(2) 全国 SSH 生徒研究発表会出場グループの選出に資する。
- 3 期 日 令和5年5月22日(月) 8:35～15:35
- 4 場 所 県立米沢興譲館高等学校 記念講堂
- 5 内 容 令和4年度2月の校内探究活動発表会(当時2年生;新3年生)にて審査員より選出された【科学研究領域】9グループと【プロジェクト型領域】5グループが、パワーポイント等を用いて口頭発表を行う。

6 日 程		SHR(出欠確認、投票用紙配布)→講堂へ移動
	8:50	生徒着席完了(座席は別紙参照)
	8:55	開会式(20分)
	9:15	前半の部(70分+バッファ5分) [5グループ×(発表9分+質疑応答3分+講評2分+1分)]
	10:30	休憩(15分)
	10:45	後半の部(56分+バッファ4分) [4グループ×(発表9分+質疑応答3分+講評2分+1分)]
	11:45	昼食休憩(55分) 審査集計
	12:40	プロジェクト型発表の部(70分+バッファ5分) [5グループ×(発表9分+質疑応答3分+講評2分+1分)]
	13:55	投票、休憩(15分) 審査集計
	14:10	対外探究活動報告 ①「Stanford e-Japan」 ②「世界を知り、日本を見る～NYで学んだ日本のジェンダー～」 ③「MTMCを通して感じたいろいろ」 ④「動物の捕食行動にかかわる遺伝子の研究」 +閉会式準備(30分)
	14:40	閉会式(40分) 講評【自然科学領域】【人文科学領域】【プロジェクト型領域】各1名。審査委員長より結果発表とご講評。【科学研究領域】最優秀・優秀・優良賞および【プロジェクト型領域】最優秀賞は校長より表彰。
	15:20	アンケート記入・片付け(15分)
	15:35	解散

- 7 表彰 (1)外部有識者による厳正な審査の上、【科学研究領域】9グループより最優秀賞、優秀賞、優良賞それぞれ1グループずつ、【プロジェクト型領域】5グループより最優秀賞を選出する。また、自然科学系研究の最上位グループより優先的に全国SSH生徒研究発表会(8月8日～10日)への出場資格(1チーム)を得る。
- (2)発表班14グループのうち最優秀・優秀・優良賞以外の班から鷹山賞(先生・一般賞)、御前橋賞(生徒賞)を1グループずつ選出する。
- ※上記の表彰班数は原則として、審査結果を考慮し増減する場合もある。

- 8 指導助言 山形大学・・・・・・・・・・神戸 士郎 教授, 中森 健之 教授  
 門馬 甲兒 教授, 山本 陽史 教授  
 大町 竜哉 准教授, 柳田 裕隆 准教授  
 神保 雄次 助教
- 米沢市役所・・・・・・・・・・相田 隆行 地域振興部副主幹  
 米沢ものづくり振興協議会・・・・・・・・高橋 洋 販路開拓支援員  
 インテグリス・ジャパン株式会社・・・・・・・・小野 秀夫 部長  
 山形県教育局高校教育課・・・・・・・・瀧本 悠子 指導主事

- 9 審査方法 本校で定めたルーブリックに基づくパフォーマンス評価表を審査及び投票の基準とする。

10 発表順

順	領域	研究タイトル
1	科学研究	自作サーマルサイクラーの開発～PCR法を安価で手軽に～
2	科学研究	サボニウス型風車の発電量増大に向けて
3	科学研究	米沢市におけるキタノメダカ ( <i>Oryzias sakaizumii</i> ) とミナミメダカ ( <i>Oryzias latipes</i> ) の生息域調査～日本の野生メダカの“今”を知る～
4	科学研究	雪での効率の良い発電とは？
5	科学研究	ペロブスカイト太陽電池の耐久性向上を目指す
		～ 休 憩 ～
6	科学研究	ウコギ葉 ( <i>Acanthopanax sieblianum</i> ) のグラム陰性菌への抗菌効果の活用
7	科学研究	山形県南陽市白竜湖におけるコイ ( <i>Cyprinus carpio</i> ) の交雑状況調査
8	科学研究	新素材セルロースナノファイバーの乾燥と復元に関わる方法の開発
9		圧力発電の角度による発電量の違い
		～ 昼 食 休 憩 ～
10	プロジェクト	milk free and egg free～食物アレルギーのマイノリティのために～
11	プロジェクト	べにっと一息！小野川温泉×紅花プロジェクト
12	プロジェクト	米沢の魅力を外国人に発信しよう～外国人向けのウェブサイトの作成～
13	プロジェクト	紅花でつなぐ国際交流～外国人との交流イベントを通して～
14	プロジェクト	Okitama Gender Innovation ～from young generation～